

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年11月25日（月）

2 確認箇所

1号機原子炉建屋（大物搬入口2階遠隔操作室）

3 確認項目

1号機原子炉格納容器アクセスルート構築に向けたデータ拡充作業の状況

4 確認結果の概要

1号機の燃料デブリ取り出しに向けて、「潜水機能付きボート型調査装置」を用いた内部調査を実施する計画があり、その準備作業としてX-2ペネトレーション（原子炉格納容器の貫通部分のこと。以下、「ペネ」という。）の外扉の穿孔作業を実施しており、これまでもその状況を確認している（5月14日、6月4日）。

6月4日、アブレシブウォータージェット※を用いてペネ内扉の穿孔作業を実施したところ、原子炉格納容器ガス管理設備フィルタ上流側に設置していた作業監視用ダストモニタの値が作業管理値に達したことから、ダストの舞い上がり状況や低減効果・状況等を確認するデータ拡充作業を実施していたが、原子炉格納容器上部にダスト濃度を監視するための作業監視用ダストモニタの設置など準備作業等が完了した。

このため、さらなるデータ拡充のための作業が本日から再開されたことから、その状況を確認した。（図1）

○本日用われた作業

- ・「調査装置監視用（2箇所）」のうち、1箇所（200A）について内扉（10～15度）の穿孔

○作業場所

- ・穿孔作業：1号機原子炉建屋1階パーソナルエアロック室内
- ・穿孔装置遠隔操作：1号機原子炉建屋大物搬入口2階

○作業の概要

- ・穿孔作業はアブレシブウォータージェットを使用して実施された。
- ・作業は協力企業の社員によって実施された。
- ・作業エリアに設置されたダストモニタによって空気中の放射性物質濃度測定が行われ、作業前後で異常な値は認められなかった。
- ・東京電力は、今後ともダスト濃度のデータ確認・評価を行い、必要な対策を講じつつ、段階を踏んで作業を進めることとしている。

※ アブレシブウォータージェット：水に研磨材を混入させて高圧で噴射させることで、金属などの切断加工を行う機械

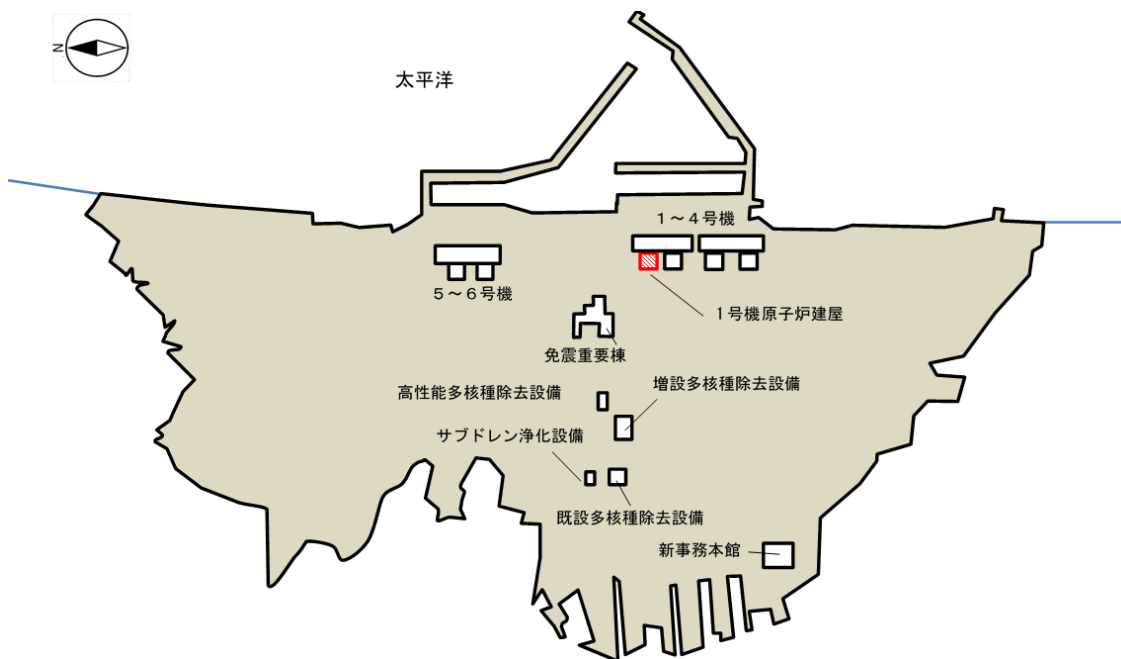


図1 福島第一原子力発電所構内概略図

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。